

間税会と私



全間連副会長
福岡局間連会長

中野文治

この度、全国間税会総連合会(全間連)がめでたく創立45周年を迎えられますことを、会員の皆様とともに慶びたいと思います。

さて、我が身を振り返りますと、30年前の平成元年博多で起業、その年、税理士から法人会への入会を勧められました。そしてその2年後、敬愛する先輩から今度は間税会入会を勧められ、何もわからず博多間税会に入会したのが、平成3年。入会后その先輩の後押しもあり、すぐに理事の末席に就きました。後押しして頂いた先輩の顔を潰さないように、ただひたすらに26年間、出席だけは続けておりました。それが余程、暇人に見えたのかどうかわかりませんが、その後常任理事、副会長の重職を与えられました。ついには平成23年前任の中川原会長が福岡国税局間税会連合会(福岡局間連)会長に就任され、その後任として3代目の博多間税会会長に就任しました。

その3年後、中川原会長のもと全間連第41回通常総会が福岡で開催されました。当時の大会は今なお、多くの会員が記憶されていることでしょう。関係者の心配をよそに、その大会は成功裡に終わりました。やれやれと思っていた矢先に中川原会長がこの節目をもって会長を辞任したいという申し出に役員一同啞然としました。

勿論余人をもって代えがたしと、すぐに全員で慰留を求めました。

しかし、中川原会長の意思は固く辞任を固辞されました。

その挙句、私にこの職責が回ってきたのです。

この3年もの間、福岡局間連会長を傍で支えてきた身としては、私には分不相応で、その重責はとてと担えないとお断りを致しました。しかしな

がら日が経つにつれ、周りから私の名前が公然と出初めました。自分では想像していないところまで話が独り歩きしていたのです。外堀を埋められるとはこのことでしょうか。ついに3回目の話し合いで、覚悟を決め承諾しました。そして平成27年6月の定時総会で承認されました。

とは言え、もとより浅学非才な私には、あまりにもこの重責を担う度量がなく未だに困惑と緊張感の連続です。

私はこの重責は「お当番さん」と思い、後世に滞りなく引き継いで参りたいと思います。

ご高承のとおり、来年10月には消費税が増税されます。我が国の財政面における消費税の重要性の高まりと相俟って、消費税の会としての間税会の役割は、益々高まってくるとともに、間税会活動の重要性も、強く求められてくるものと考えられます。

そして間税会の現状等に適切に対応していくためには、何よりも各間税会の組織を拡充強化し、本会の存在感を高め、発言力を強めていくことが肝要です。そのような中、福岡局間連は全間連と福岡国税局管内31各単位会の繋ぎ手として、お役に立ちたいと願っておりますので、皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに創立45周年を節目として、良き先人の皆様が育てられた間税会を守り継承することは勿論のこと、消費税を主体として間接税の時代を迎える「間税会」は更に大きく飛躍して、来るべき50周年を会員の皆様とともに迎えましょう。